会議結果報告書

1　会議名	ごみ処理に関する課題についての意見交換会（東海岸北五丁目自治会）
2　日時	平成 30 年 6 月 24 日（日）13：30～14：30
3　場所	海岸コミュニティセンター
4　出席者	（資源循環課）添田主幹、下舞主任 （環境事業センター）篠田主幹、鈴木主事 （東海岸北五丁目自治会）参加人数：46 人
5　内容	本市のごみ処理に関する課題について意見交換会を実施した。会議の主な質問と意見は次のとおりであった。 ●ごみの有料化は袋を購入する方法しかないのか。 →有料化が決まっているわけではない。今年度中に意見の集約を行う予定である。また、袋を有料化するほかにシールを購入して袋にシールを貼る方法もある。 ●ごみ袋を購入することになると、手間が増えるので住民税を増やしてはどうか。 →税体系の問題があるため難しい。住民税を増やしただけだと分別に力を入れている人が報われなくなる。分別をしっかり行っている人が報われる形にしていきたい。そうすれば不適正排出もなくなっていくと考えられる。 ●神奈川県は４市が戸別収集を行っているのか。 →収支のバランスが取れておらず、赤字になっている自治体があるため神奈川県内では２市が戸別収集を行っている。 ●道の狭い地域の戸別収集はどうなるのか。 →軽トラックで収集に向う予定。軽トラックが進入できない道の場合は歩いて収集することを検討中である。戸別収集にかかる経費は環境事業センターで試算中である。 ●一中通りの不適正排出が多いのでどうにかして欲しい。 →不適正排出は環境事業センターの収集事務所か環境指導員が担当している。 ●袋の販売経費の内訳を知りたい。 →販売経費はごみ袋の製造費、運搬費、スーパーなどの販売手数料である。 ●北四丁目は戸別収集をしているところがある。戸別収集かステーション方式か選べるのか。 →まだ決まっていない。平成３１年度に方向性が決まる予定である。

	●全国の約６０%の自治体が有料化を実施しているが、県内の川崎市や横浜市といった政令市の動向はどうか。灰の資源化の経費はどれくらいになるのか。 →川崎市と横浜市はごみの有料化に向けて取り組んでいる状況であるが人口規模が大きいので進んでいない状況である。茅ヶ崎市は現在 1,000ｔの灰を資源化している。将来は約 7,000ｔの灰を全量資源化する必要があり、50,000 円/ｔかかるので経費は約３億５千万かかることが予想されている。 ●プラスチック製容器包装類の汚れ基準が分かりにくい。 →分け方、出し方を参考にして欲しい。 ●集積場所で使用している「カラスいけいけ」は無駄になってしまうのか。 →平成３１年度に方向性が決まる予定なので無駄かどうか言えない状況である。 ●資源物集積場所を分散したいが無理だと言われた。 →原則３０世帯/置場である。環境事業センターの業務担当が集積場所を管理している。 ●隣接地に県か市の施設がある。そこの雑草を善意で取っているが、そういったものも有料になるのか。 →雑草や剪定枝は資源化になるように検討中である。 以上